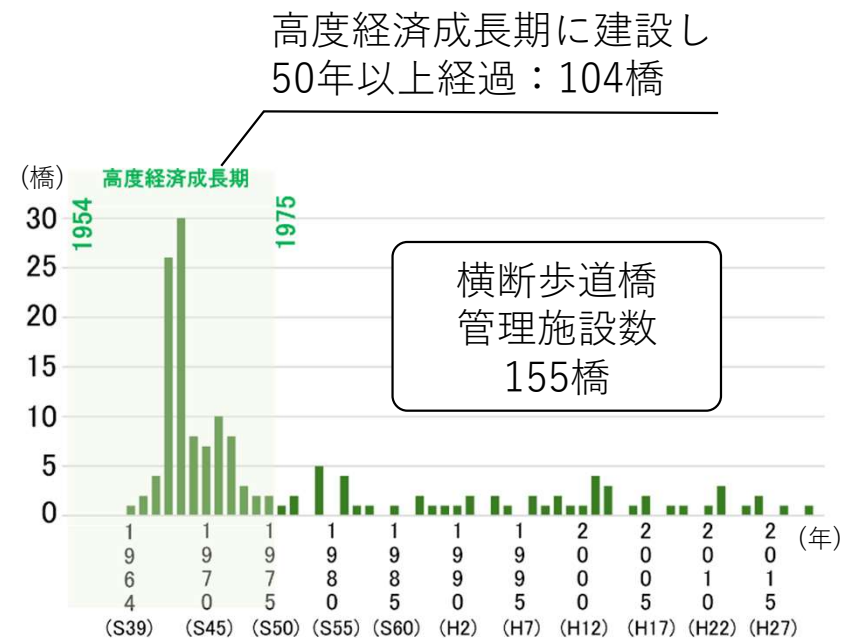


横断歩道橋の撤去に向けて

1. 横断歩道橋の撤去に向けて

施設の状況

- 歩道橋管理施設数は155橋
- 管理施設の67%は高度経済成長期に建設



歩道橋を取り巻く課題

○ 老朽化への対応

- ・ 維持管理の増大

○ 少子高齢社会への対応

- ・ 小中学校の統廃合等による通学路廃止
- ・ 高齢者等の利用に配慮

○ 交通安全の確保

- ・ 支柱や階段による歩道空間の狭隘化



老朽化（継続的な補修）



少子高齢化への対応

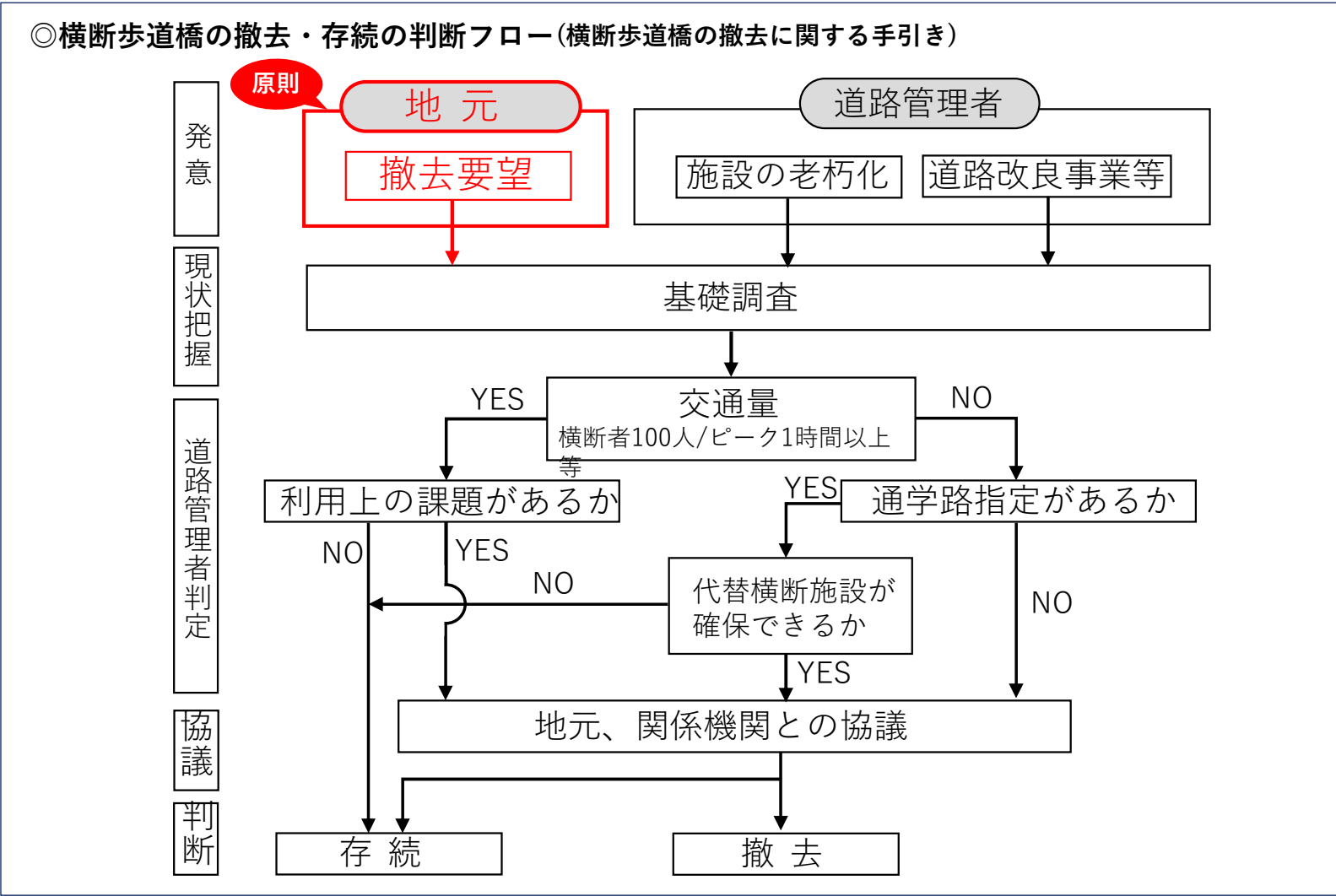


歩道幅員、視認性の阻害

1. 横断歩道橋の撤去に向けて

現行の方針（現状も含む）

- 平成26年12月、横断歩道橋の撤去に関する手引きを策定（静岡県交通基盤部道路保全課）
- 原則として**地元（自治会等）から撤去要望がある横断歩道橋を対象**としているが、**地元からの要望はない。**



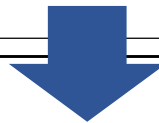
1. 横断歩道橋の撤去に向けて

今後の取組（方向性）

上位計画

◎静岡県社会インフラ長寿命化行動方針（R6.3静岡県交通基盤部）抜粋

その他の優先順位の考え方として、施設毎の地域条件等を考慮し、ライフサイクルコスト（LCC）が縮減されるように考慮することとする。また、一部の施設においては、早期措置段階の施設が多く残っているが、これらが施設利用者等にとって機能上の問題がないケースも見られる。このような場合も含めて、各施設管理者が、施設の劣化状況や利用状況等を鑑み、周辺施設と併せて機能を維持できるように、補修、更新等の対策と、廃止、統合といった集約・再編の検討を、全体最適の考え方で進めることとする。



横断歩道橋の撤去に向けて

- 歩道橋の利用状況等を整理し、撤去候補を抽出
- 歩道橋周辺の安全対策(横断歩道設置、歩道空間改善等)と合せて歩道橋撤去を検討
- 地元、関係機関との合意形成

歩道橋撤去候補のポイント

【目安の歩道橋数】

- 通学路指定が解除【（指定なし38橋）】
- 下部工により歩道幅員が確保できていない【橋脚が歩道上に設置64橋】
- 利用率が低い【12hあたり100人以下＝18橋】
- 建設後50年が経過【104橋】
- 点検による健全性診断がⅢ判定(早期措置段階)以上【43橋(2巡目点検)】
- 付近に代替施設(横断歩道等)がある【18橋】

- ◎横断歩道橋の撤去に関する手引きの見直しを行う(横断歩道橋の撤去・存続の判断フロー見直し)
- ◎ストックマネジメントの最適化を図るため、横断歩道橋撤去に向けた調整を進める